

京都府下における歯科衛生士の実態調査報告パート1 ～離職率の改善を目指して～

はじめに

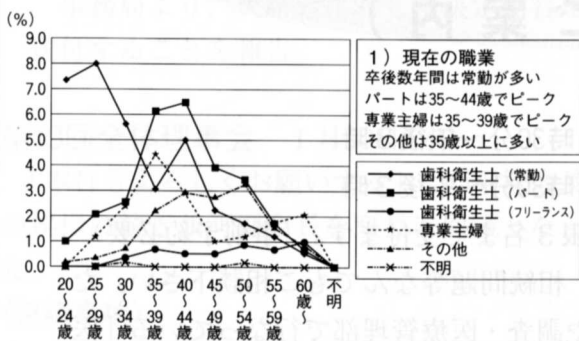
歯科衛生士の離職率は他の医療職種よりも高く、歯科医院が慢性的な歯科衛生士不足に陥っている状況であることは、先生方もご周知の通りである。

そこで調査・医療管理部では、歯科衛生士の勤務実態や要望その他を明らかにし、会員診療所の歯科衛生士の確保を目的として歯科衛生士にアンケート調査を行った。今回はその結果の中から、特に歯科衛生士の離職率の改善に焦点を当て、歯科衛生士が離職する理由、また職場に復帰する条件などに関して報告する。

調査は、京都歯科医療技術専門学校衛生士科の卒業生、京都府歯科衛生士会会員、及び会員診療所に勤務するそれ以外の歯科衛生士を対象として行った。

(発送1,771通 回答584通 回収率33.0%)

1. 現在の職業



卒後数年間は常勤で働く歯科衛生士が多い。その後結婚、出産で退職すると考えられる。

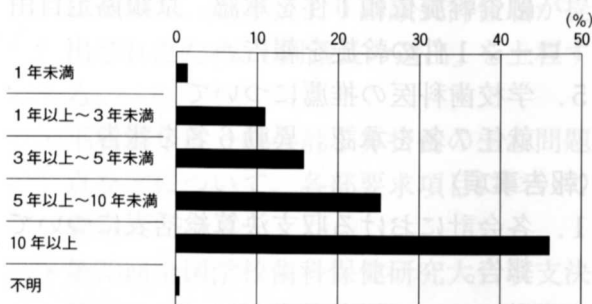
パートで働く歯科衛生士がピークになるのは35～44歳で、その後の年齢層においても比較的パートで働く方が多い。35～44歳において、出産、育児に従事していると考えられる。

専業主婦についても35～39歳をピークにその前後の年齢層が多く、出産、育児に専念していると考えられる。

その他は他の職業に従事していると考えら

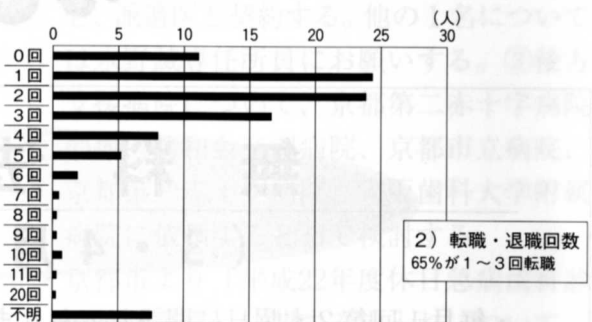
れ、35歳以上の方に多くみられる。数年、歯科衛生士として働きそのまま転職したか、結婚、出産、育児後に歯科衛生士として復帰せず、他の職業に転職したものと考えられる。

2. 回答者の臨床経験年数



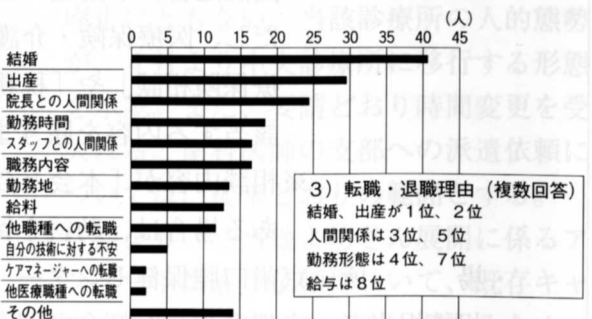
アンケートにお答えいただいた方は、10年以上勤務されている方の割合が多いことがわかる。

3. 回答者の転職・退職回数



65%近い方が1～3回の転職を経験している。

4. 転職・退職した理由(複数回答)



結婚(40.5%)、出産(29.4%)がやはり転職・退職理由の1～2位にあげられている。結婚・出産に次いで「院長との人間関係」(24.3%)、また「スタッフとの人間関係」(16.4%)も上

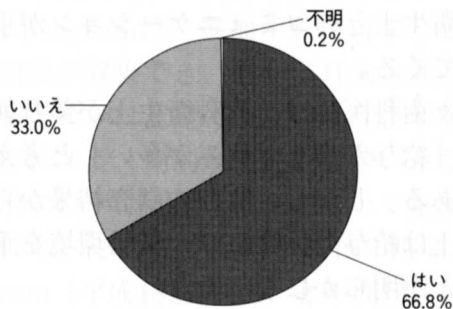
位にあがっている。

「勤務時間」(18.3%)と「勤務地」(13.3%)も多く、結婚・出産を契機に重要な要素になってきていると推察される。

「職務内容」とは「院長との人間関係」と密接に関係しているのではないだろうか。

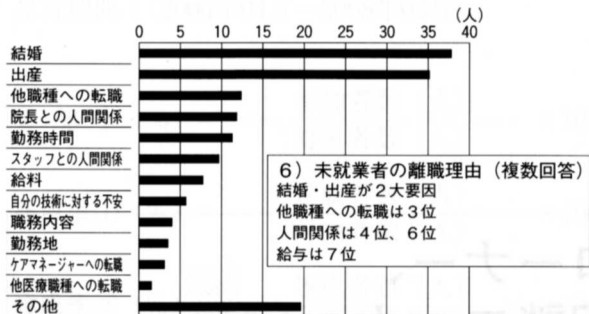
意外にも「給料」に関しては、転職・退職の理由としては8番目で低いようである。

5. 回答者の歯科衛生士の就業率



3割以上の方が現在歯科衛生士として就業していない。

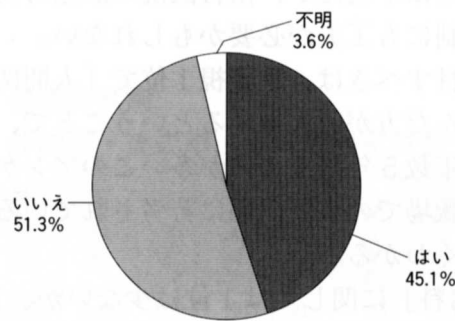
6. 未就業者の離職理由(複数回答)



結婚(37.8%)・出産(35.2%)がやはり2大要因である。院長との人間関係(11.9%)、スタッフとの人間関係(9.8%)の人間関係が上位である一方、給料に関しては7.7%と意外に低い。

他職種への転職(12.4%)も上位にきていることから、歯科衛生士の仕事に対する魅力が不足しているか、勤務地、勤務時間との兼ね合いで他職種へ転職せざるを得なかったのかもしれない。

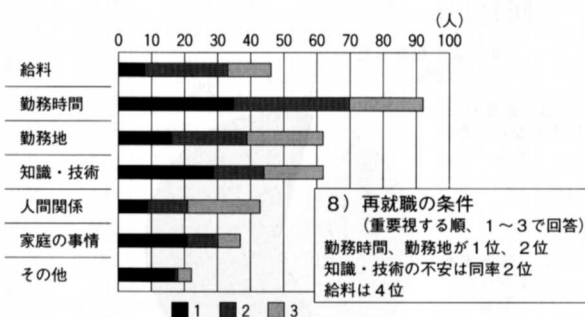
7. 未就業者の再就職希望の有無



約半数の方が「条件が合えば就職したい」と考えている。

8. 再就職の条件

(重要視する順、1~3で回答)



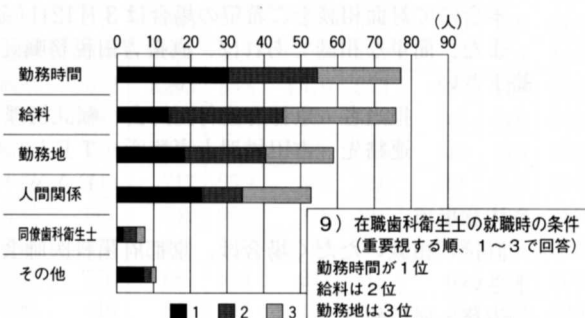
ここで最も重要視しているのが「勤務時間」であり、就職希望者の家庭の事情を考慮した対策が必要である。

知識・技術への不安も高く、やはり離職の期間が長くなると復職には躊躇してしまうのであろう。

ここでは2位、3位に給料が上位を占めているが、やはり有資格者として効率のよいパートを求めていることが伺える。

9. 在職歯科衛生士の就職時の条件

(重要視する順、1~3で回答)



ここで重要視する1位は「勤務時間」であった。この「勤務時間」が、長時間なのか時間

